

三位一体主日

2020年6月7日

三位一体の神によって孤独から解放され、人を招き寄せていく



日本聖公会東京教区  
東京聖三一教会

三位一体主日

2020年6月7日

三位一体の神によって孤独から解放され、人を招き寄せていく

司祭マリア・グレイス笹森田鶴

地が混沌であって、闇が深い淵の上にあった始めの時、神の霊が水の上を覆うように舞っていました。

神の霊とは、神の知恵であり、創造する力です。それが、何一つ無秩序の只中で、混沌の地を慈しむように、その上を舞っていました。

神は初めの時から、その霊と共にありました。ありとあらゆるものを創造され、ついにそのすべてのものを管理させるために、神ご自身に似せて人を造られます。ご自分と共に、ご自分のなさろうとする創造の業を共に担う者として人を造られます。

神にかたどるという意味は、造形が同じという意味ではありません。なぜなら、最初に造られた男と女は違うからです。そうではなく、神の思いを継ぐ者として、共に創造するもの、Co-creatorとして神は人を造られました。神は、人と共にその後も歴史の中で働かれました。

わたしたちはそのような神の歴史の中に生きています。そして人も神と同じように共に働くものを必要とします。

その後も長い歴史の中で、神は人と共にあろうとされました。時代も場所も超えて、しかしすべての人びとの只中に常に存在されようとしています。神はそういうお方です。ですから、人は、自分自身も他の人と共にあろうとしなければなりません。それが、神にかたどられた存在の使命です。

わたしたちは人と共にあることで完全になります。神や人と離れては、誰一人完全なものとは決してならないのです。神にかたどられたものとしての姿を十分に発揮するのは、人が誰かと共にいる時です。

ひとりひとは欠けや破れがあり、また全く違う存在です。けれども他の人と共にあろうとするとときに欠けや破れが補われ、違いが神の多面に働かれる神の姿を映し出すこととなり、祝福となっていきます。励まし合い、思いをひとつにし、平和を保つことによって、愛と平和の神はわたしたちと共にいてくださるのです。それは、今生きている人同士だけではなく、亡くなった方との間でも可能となります。

わたしたちがひとりでは生きられず他の人と共にあるように、わたしたちは神とも共にいます。神はわたしたちのもっとも深いところに存在してくださっています。

けれども人は、神と共にいることから離れてしまいました。それは結果的に、他の人と共にある生き方からも離れてしまうことでした。それでは人と人は分断され、孤独になってしまい、命を輝かしあうことができなくなります。

とうとう神は、そのすべての権能を授かっているキリストをこの世に遣わされました。

それにも関わらず、今も人は人との間に壁を作り、連帯を壊して分断させ、理由のない差別によって他の人の命を貶めて奪っていきます。残念ながらそれはアメリカで起こっているだけではなく、イスラエルでも、そしてこの日本でも、世界中で起こっていることなのです。

そのような現実の中で、今日は三位一体の神を記念する日として、改めてわたしたちは三位一体の神のお働き、み心を覚えます。

神は、かつて世界を創造され、今もすべての命を造り出し続けておられる神です。

また、キリストは人類を神に再び統合させるために自ら死の道を歩み、復活し、昇天し、この世で死んだ後も神と共に生きることを示してください、人類を死の絶望から救ってくださいました。

そして、導き主である神の息、聖霊が、わたしたちの中に吹き入れられて、神が人と共に生きようとしていることを教えてください。それが三位一体の神のありようです。

この神は、ばらばらのようできて相互に結び合っており、それぞれ別に存在しているようできて相互に内在しあい、そして同時にその関係から超越し、飛びだしていったとしてもなお、完全に共に世界に働くことのできる神です。

モルトマンという神学者がこのように言っています。

「この世界は、ばらばらで、ずたずただけけれども、そのような被造物が三位一体の神と統合することで救いが完成するならば、三位一体として統一している存在は、開放的で、人を招き寄せ、統一させる、つまり統合と同時に単一ということをも可能にする存在である」、と。

わたしたちは、三位一体の神が共にいてくださることで、ばらばらに生きているもの同士が結び合わされます。それは、人と人とが統合すること以上の出来事、創造主である神が被造物である人間と統合してくださっている出来事の故に起こります。

人は三位一体の神によって自己完結の孤独から解放され、人を招き寄せていきます。三位一体の神がわたしたちひとりひとりの中にいてくださることで、それを知っていても知らなくとも、神に愛される存在であることを人間は証しているのです。そして、三位一体の神という大きな存在の中で、他の人びとと結び合わされ、共にいる経験によって、愛するということを知ります。

思い出してみてください。皆さんはすでにこの神との統合、愛する人との統合をすでに経験しているはずです。

そして教会も三位一体の神に統合されています。教会のありとあらゆる営みは、ばらばらで、ずたずたのようでも、神が共にいてくださっている中ですべてが起こっており、すべてのことはつながっています。

世界はそのような世界であることを、教会は世界に伝えていく器としてあるのです。

三位一体の神が皆さんの心と思い、体と霊、すべてを守ってくださり、神に結び合わされているものとして豊かに祝福して下さいますように。わたしたちが神のみ心に沿って生きることができますように。